



学術大会 桑名で開催

公益社団法人日本柔道整復師会
第 52 回東海学術大会三重大会

12月3日(日)午前10時より、桑名市「NTNシティホール」にて、公益社団法人日本柔道整復師会第52回東海学術大会三重大会が開催され、340名(うち本会会員116名)が出席した。

東海ブロック会森川会長の開会の辞の後、来賓の鈴木英敬三重県知事が、大会開催への祝意、歓迎の意とともに医療行政への柔道整復師会の日頃の貢献に対する謝意を表し、さらにインターハイや国体など、今後三重県で予定されている多数のスポーツ大会への支援や、災害時の防災・救護活動への協力を求めた。



10時40分よりA会場(大ホール)にて特別講演(一般公開講座)が開催され、「下肢のスポーツ障害 手術加療を中心に」と題して、三重大学大学院医学系研究科スポーツ整形外科講座講師の西村明展先生にご講演いただいた。部位別外傷発生率では下肢が多いことを紹介し、膝の靭帯損傷や半月板損傷、第5中足骨疲労骨折などについて病態や治療方法を解説された。そのなかでとくに変形性膝関節症において、変質した半月板を切除した症例では温存した症例よりもものちの膝OA発症の頻度が高いことから、自己由来の血餅から得られるフィブリンクローットを使用してできる限り縫合していくことが、半月板変性断裂に対する選択肢のひとつとなりうるのお考えを披露された。

12時20分からは、基調講演として「肩関節拘縮の運動療法～理学療法士からの視点～」と題して、奈良市「さくらい悟良整形外科クリニック」リハビリテーション科・科長で理学療法士の榮崎彰秀先生にご講演頂いた。先生は筋トレばかりしていても可動域が狭いとパフォーマンスが発揮されないの、拘縮はきちんと見ていかなければならないと前置きし、肩関節の解剖や肩関節拘縮発生のメカニズム、制限因子の評価、治療の理論と組み立て、運動療法などについて詳しく述べられた。

運動療法では、混在することが多いスパズム・攣縮・癒着・短縮という現象を把握し、組織の状態に合わせて対象と方法を区別して治療することが重要であると述べ、とくに挙上と結帯に重点をおいて説明された。理学療法士の観点からの運動療法は我々のスキルアップにも繋がるものであった。



14時からは8題の会員研究発表と、1題の学生発表があり、本会から加賀崇憲会員(一宮)が「立方骨疲労骨折の一症例」と題して発表した。自身が遭遇した症例を研究・考察し、従来稀とされている立方骨の疲労骨折は、正常な足部アーチが形成されていても楔状骨と立方骨の形態によって起こりうることを考慮すべきだと述べた。



午後3時15分から3時45分まで117名(本会91名)の会員が参加し、日整介護セミナーとして三谷 誉会員(日整特別諮問委員)より、「2017柔道整復師と介護保険についてー柔道整復師の地域包括ケアシステムへの貢献ー」と題し講習会が行われた。



介護予防・日常生活支援総合事業の中で施術者ひとりの接骨院が参入できる事業形態を詳述し、地域ニーズを確認すること、地域ネットワークの「連携」に入ること、具体的な運動効果を市町村職員に説明できること、情熱と誠意を持って交渉することが大切であると述べた。



座長を務める寛学術部長

開催
予告

◆ 第12回県民公開講座(第89回会員研修会)
平成30年2月18日(日) 10:00~11:30 ウィンクあいち5階
講師 羽田道信先生
藤田保健衛生大学医療科学部リハビリテーション学科教授
演題 災害に備える!防災・救急に役立つ日用品活用法

大村知事に優勝報告



右手間・祝意を述べる大村知事と、左手前から森川会長・春日井部長・佐野監督・吉田剛章米田柔整教務兼柔道部監督

11月29日(水)、知事公舎を訪れ大村秀章知事に、10月8日に行われた日整全国少年柔道大会の優勝報告を行なった。

午後4時30分より、佐野 恵監督や選手5名とともに、森川会長と春日井柔道部長が出席し、森川会長が愛知県チームが全国制覇を果たしたことを報告した。知事からは慰労とお祝いのことばを頂き、柔道着に着替え優勝トロフィーや賞状を抱えて臨んだ選手たちは、緊張しながらも誇らしげな面持ちで知事のことばに聴き入った。

また会員の娘さんでありイタリアの世界形選手権大会で優勝した石田桃子(米田柔整卒)・真理子(同2年生) 姉妹も同席し、優勝報告を行なった。

相羽会員に日整功労者表彰



相羽秀昭会員(半田)が日整全国柔道大会で、審判や形演武などを5回務め功労者表彰を受けた。

昨年までは大会当日講道館で行なっていた授与式が、今年からは各県で行なうことになったため、11月27日(月)の支部長会で森川会長が表彰状を授与し、理事11名と支部長10名が祝った。

マスターズハンドボール小原大会救護ケア

11月18日(土)・19日(日)、第25回全日本マスターズハンドボール小原大会(第1回マスターズハンドボールシニア大会)が開催され、全国の男子60歳女子50歳以上95名7チームが参加した。

その参加選手たちに本会4名の会員が、89部位の捻挫・挫傷などの外傷処置・予防のテーピング・アイシングなど行なった。今後は参加選手が増えていくこの大会だが、今回は大きな外傷もなく無事大会を終えることができた。



(井上哲三 大曾根)

日赤街頭募金に参加



12月17日(日)午後、日赤奉仕団活動の一環で栄周辺にてNHK海外助け合い募金活動が行なわれ、愛知県柔道整復師会災害救護奉仕団から小林事業部長と石川 真事業部員2名が参加協力した。

職員旅行 in TOKYO



11月25日(土)・26日(日)、本会女性職員6名とその家族が職員旅行に出かけた。
新幹線で東京へ行き、新大久保で韓国ランチを楽しんだあと、浅草・スカイツリーへ。翌日はデイズニースイッチで童心に還って終日楽しんだ。